

2026 年度(前学期)学生による授業評価アンケートについての総評

2026 年 8 月

浦安キャンパス FD・SD 委員会

2026 年度前学期に浦安キャンパスで行われた「学生による授業評価アンケート実施結果」(各学部学科および各センター)の集計結果について、以下のような総評を提示する。

アンケート実施の概要

(1)実施期間等

＊ST1 科目：2026 年 5 月 14 日（木） ～ 5 月 27 日（水）

→アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 5 月 28 日（木）

＊全学科（ST1 科目以外）：2026 年 6 月 25 日（木） ～ 7 月 8 日（水） →アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 7 月 9 日（木）

＊中間フィードバック：授業改善の PDCA サイクル促進のため、教員は授業期間中の任意の時期に授業評価以外の任意の方法で学生から授業に関する意見等のフィードバック（中間フィードバック）を受け、それを可能な範囲で当該学期中の授業改善に取り入れ、過去の事例を含め、改善された事項等を学生に伝えるとともに、集計結果分析及び授業改善策の作成に際しては、その結果について記載するよう努めた。

(2)対象授業科目

＊各教員がアンケート実施時期に担当している全授業科目

（ゼミの授業科目、履修者数 5 名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また、1 教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加することができるものとする。）

(3)実施方法

＊アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間に Web ポータルシステムから回答する。

＊アンケートは、授業に関する設問を五段階で評価する方法で実施する。また、設問内容を自由に設定できるアンケート（C-1・C-2）を実施することができ、このアンケートを実施する場合、教員はアンケート実施期間前日までに manaba のコースニュースから学生に質問内容を伝える。 ※ ST1 科目のみ：5 月 13 日（水） ※ 全学科（ST1 科目以外）：6 月 24 日（水）

＊アンケート実施期間中の授業においてアンケート回答の時間を設けることができる。

(4)周知方法

アンケート実施については、実施期間 1 週間前までに Web ポータルシステム等で学生及び教員に周知する。 ※ ST1 科目のみ：5 月 7 日（木） ※ 全学科（ST1 科目以外）：6 月 18 日（木）

(5)その他

アンケートの内容、集計、公表、事務およびその他の事項は、「2026 年度学生による授業評価アンケート実施に関する取扱い」に従った。

(6)回答区分

アンケートの設問に対する回答は、5 段階評価（5. 満足、4. やや満足、3. どちらともいえない、2. やや不満、1. 不満）で行われた。

(7)アンケート集計結果等の活用方法

アンケート集計結果等は、次のような用途に活用される。

＊担当教員の授業改善努力の促進

＊担当教員への授業改善の提案

＊カリキュラム改善のための基礎資料

＊FD・SD 活動のための基礎資料

アンケート結果の考察

(1) 履修者数及び回答者数について

表1は、浦安キャンパスにおける、科目区分別アンケート集計結果を示したものである。履修者数は延べ23,194人、回答者数は10,679人で回答率は、約46.04%となり、昨年度の回答率と比して上昇している。授業内においてアンケート回答時間を設定する等による回答率の維持・上昇が期待される。

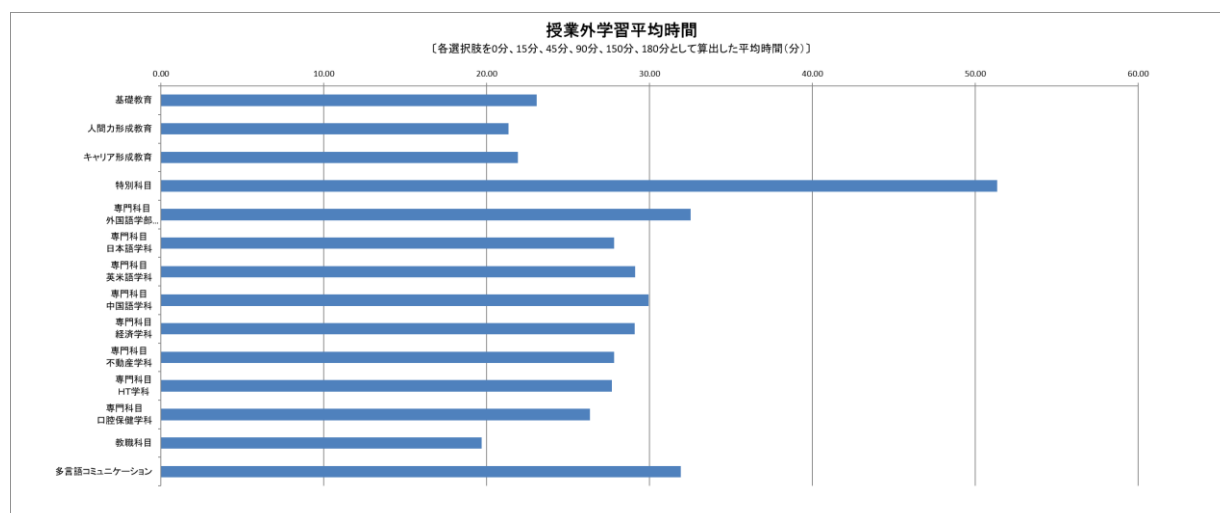
表1：科目区分別アンケート集計結果

2026年度前期授業評価アンケート集計結果(科目区分別)																	明海大学浦安キャンパスFD・SD委員会	
区間	No.	質問文	全体	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 G8関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュ ニケーション	
			対象科目数	567	16	54	16	24	30	30	63	30	81	40	83	35	21	44
			履修者数	23,194	534	3,700	629	580	896	1,298	1,554	304	5,625	2,784	2,172	1,621	458	1,039
			回答者数	10,679	279	1,273	397	443	506	629	750	211	1,832	1,158	1,347	982	261	611
区間	No.	質問文	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 G8関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュ ニケーション		
		平均時間(各選択肢を0分、15分、45分、90分、150分、180分として算出した平均時間(分))	23.06	21.34	21.91	51.34	32.52	27.81	29.12	29.93	29.08	27.82	27.67	26.33	19.69	31.90		
A-2	1	板書(スクリーン)の文字・画像等・配布物は読みやすかったですか	4.29	4.49	4.53	4.60	4.41	4.60	4.58	4.69	4.37	4.20	4.60	4.23	4.79	4.48		
	2	教員の説明はわかりやすく、授業の進み具合は適切でしたか	4.24	4.47	4.52	4.62	4.42	4.61	4.53	4.66	4.39	4.20	4.54	4.24	4.80	4.43		
	3	授業の内容をよく理解できましたか	4.13	4.30	4.37	4.49	4.22	4.48	4.39	4.48	4.21	4.01	4.38	4.03	4.68	4.29		
	4	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.38	4.42	4.49	4.54	4.35	4.56	4.52	4.62	4.35	4.17	4.49	4.26	4.69	4.38		
	5	授業はシラバスの内容に沿って実施されていましたか	4.30	4.44	4.49	4.52	4.37	4.58	4.50	4.55	4.40	4.25	4.57	4.37	4.64	4.42		
	6	この授業で興味や関心が深まりましたか	4.08	4.38	4.29	4.43	4.23	4.48	4.39	4.55	4.24	4.08	4.42	4.12	4.68	4.26		
	7	この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.27	4.44	4.42	4.56	4.34	4.57	4.46	4.65	4.34	4.15	4.51	4.19	4.77	4.37		
O-1	8	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
O-2	9	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(2) 学修平均時間について

図1は、授業外の学修平均時間(科目区分別)を示している。概ね20～30分程度の学修平均時間となっており、例年と比して大幅な変化はない。他方、講義シラバスに記載された事前学修・事後学修の達成度については、各部署教員での考察が期待される。

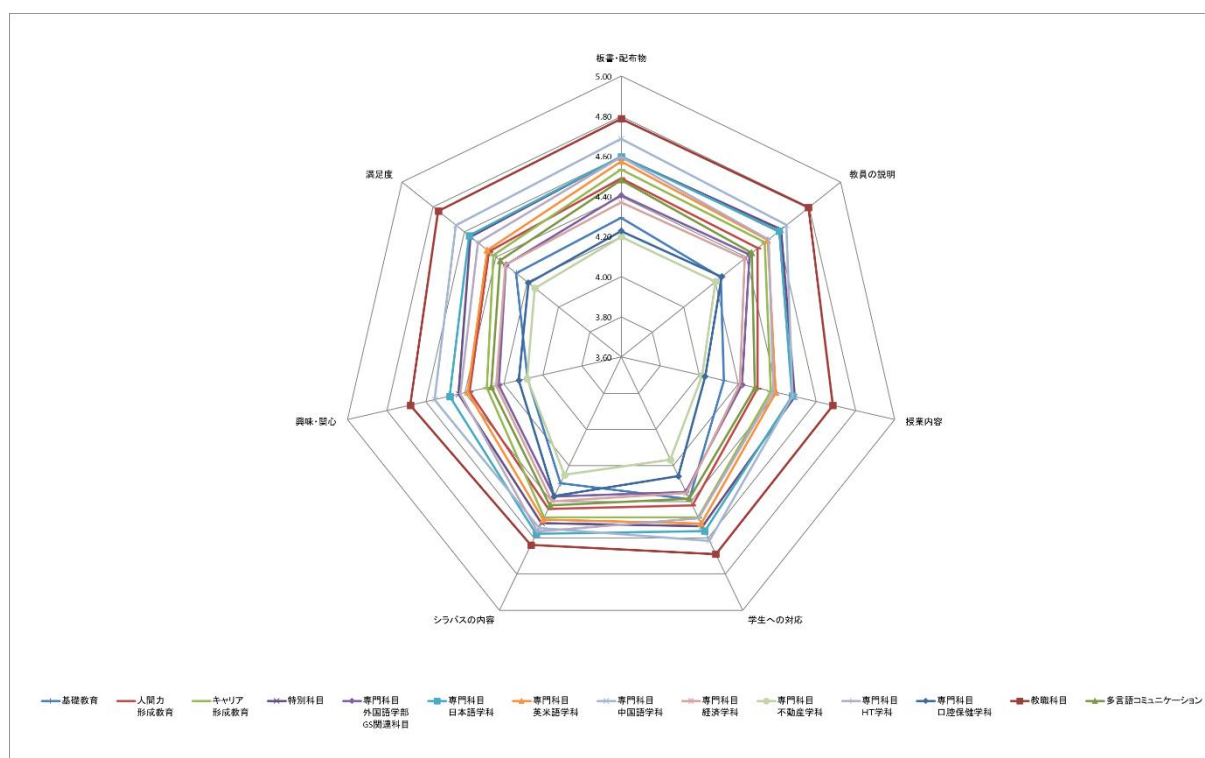
図1：授業外学修平均時間



(3) 設問別回答平均値について

表 1 の中段および図 2 は、アンケート設問別回答平均値(科目区分別)を示したものである。全数値が 4.0 を超えていることから回答者が授業を概ね高く評価しており、教員の授業改善や中間フィードバックを含む PDCA サイクルの成果と思われる。今後は、回答率の上昇による、一層の多角的な意見の回収が期待される。

図 2：アンケート設問別回答平均値(科目区分別)



(4) 授業担当教員によるアンケート結果に対する＜当学期以前からの授業の課題＞・＜中間フィードバック＞・＜改善案＞・＜学生向けのコメント＞について

集計結果に対する各教員による対応については、学生のより良い学修環境の提供に向けて真摯に工夫している様子が報告されている。

*受講生の多様化への対応

学修に必要な各種 PC スキル、学修意欲、事前学修に対する姿勢等の受講生の相違や多様化の実態がある中で、学生一人一人に適切となる授業環境を整えることが主要課題の一つである。これらの解決策の一つとして、事前学修・事後学修の時間確保をより一層学生に促していくことが挙げられている。また、学生の多様化に伴い、グループワークや個別指導などの様々な授業スタイルの導入の検討も必要となっている。

*受講生の受講ルール遵守への対応

授業中の私語、携帯の無断使用、居眠り、WEB ポータルシステム（スマホ出席システム）における出席不正等の授業妨害行為を防止することも課題として挙げられる。これらに対しては、授業妨害行為を行う学生への厳重な対処のほか、授業構成や授業時に実施するレポート、小テスト等において使用するツールの多様な組み合わせなどの対応も必要となっている。

*生成 AI 等のオンラインツールの活用への対応

情報化が進展する中、学生の学修環境も大きく変化している。オンラインツールを活用した事前学修や授業内の小テスト等の実施においては、課題文章をコピーしオンラインツールを使用して表示された文章をそのまま自身の解答として提出するなどの事象が発生しているようである。学生自身で考察し解答を導き出すといった大学生としての主体的な学びを支援する方策を検討する必要性が生じている。

2026 年度よりパソコンを授業に持参することが義務化されたものの、一定数の学生が持参していない、持参しても授業外のことに使用している、パソコンの操作方法が分からない（ワードやエクセルの使用ができない）などの授業環境上の課題が生じている。これらに対して、大学全体として、受講ルールの徹底、パソコンスキルの修得支援、オンラインツールの適切な使用等の学修倫理の徹底を教育する機会を整えることが期待される。

また、学生が多様化する中、授業運営における工夫も必要と思われる。学生の特性や適性に鑑みた上での、グループワークの導入、個別の関心に沿った学修支援の検討などを通じて、学生の学びへの意識を高めることが考えられるだろう。生成 AI 等のオンラインツールが多様な情報を提供中、それらを活用しながらも、教員にしかできない学生との関わり、質の高い学びの提供の在り方を検討していく必要がある。各学部学科での FD・SD 活動等を通じて教員間での対話を行い、よりよい方策を大学全体として見出していくことが不可欠である。

アンケートの結果に基づく今後の課題と残存する問題

本報告書では、上記のように、2026 年度前学期における授業評価アンケートの集計結果を通じて、浦安キャンパスの授業運営における現状と今後の展望を考察した。

全体として、回答した受講生による授業評価は概ね高い水準にあり、各教員が授業の質向上に真摯に取り組んでいることが確認された。

他方、刻々と学生を取り巻く学修環境が変化する中であって、学生の学修環境がより質の高い、また適切なものとなるよう、大学全体で取り組むことが今後一層期待される。授業評価アンケートもその一環として有効なデータが収集できるよう、質問項目等を含めて継続的な改善を図っていくことが望まれる。